

第9回 ジャパン・カップ・オープン報告

株式会社長谷川萬治商店

副社長 長谷川 泰治

第9回ジャパン・カップ・オープン開催

2018年11月3日(土)、東京都立川市の昭和記念公園で第9回ジャパン・カップ・オープンが開催されました。木のスポーツとして話題のクップを実際に体験するため、部下の鈴木君、坂口君、岡田君を誘い長谷川萬治商店チームを結成し参加しました。クップは、子どもから高齢者までハンディをつけずに楽しむことのできるスポーツです。2チーム対抗で向かい合っ行って、相手チームのクップをカストピンナ(木棒)を投げて倒していきます。全部倒した後に中央のキングを倒すと勝ちとなる的当て・陣取りゲームです。一投一投で戦局が変わり、一喜一憂したりナイスショットではハイタッチをするなど、チーム全員で喜びを分かち合える素敵なチームゲームです。ジャパン・カップ・オープンは文字通り、クップの全日本選手権、つまり日本一を決める大会です。そんな大会に初クップの我々が参加していいものなのか不安がよぎる中、当日の朝を迎えました。秋晴れで絶好の行楽日和ということもあり朝から高速道路は大渋滞です。初参加の全日本選手権に遅れてはいけないと車から急遽電車に切り替えて西立川駅に向かいます。西立川駅を降りるとすぐに昭和記念公園の入り口ゲートが見えてきます。入園料を払って入場する公園ということも知らずに入口付近で入場してもいいものかどうか悩んでいると長谷川萬治商店チーム主将の岡田君から「副社長」と声をかけられひと安心です。大会の参加料金に入園チケットも含まれているということで、早速、クップ・オープンの事務局の方々を探します。うろうろしていると、聞いたことのある声が。なんと、そこにいたのは東京木材青年クラブの仲間である土橋君です。土橋君はクップ業界では有名人です。ここでお会いできると思いませんでした。早速、うちのチームの監督兼エースストライカーになってくれないか交渉です。土橋君は全国木材市売買方組合連盟事務局長の草野さんと一緒に参加とのこと。すでに親しい仲間のチームメンバーとして参加する予定でしたが、不安そうにしている我々を見かねたようで、なんと我々のオファーを受けてくれることになりました。クップ指導員の資格ももっている土橋君を仲間に来たということは百人力です。先に園内に入っていた草野さん、鈴木君とも合流し、意気揚々とクップの会場に向かいます。途中、「昭和記念公園はクップのためにできたような公園です。」「今日は最高のクップ日和です。」「ビール、肉、クップは最高の取り合わせです。」とクップ推しの解説を土橋君から聞きます。少し歩くと広大な芝生広場に、クップフィールドが整然と並んでる会場に到着しました。クップの道具は全て木なので芝生広場によく映えます。すぐに土橋君からクップのルール説明、テクニックの講習を受けます。さすが指導員資格保持者です。説明がとてもわかりやすい。少しの間、練習をしていると10時になり、大会開会式が始まりました。総勢200名ほどの参加者が並び、大会主催者、審判員の御挨拶、そしてチーム紹介です。会社名で参加しているのは我々だけで、他はどここの団体かわからないようなチーム名です。こんなことだったら、我々もニックネームで登録すればよかったと少し後悔しました。後々わかってきたのですが、静岡県的小山町や岩手県の

住田町など役所の方々、林野庁関係者、大学生、スウェーデンの方々、参加者は多岐にわたります。今年にはスウェーデンと日本の国交150周年ということでスウェーデンからの来賓も出席しています。だれでもできるのがクップのいいところで来賓もチームとして大会に参加します。

予選会からのスタート

開会式の後には初心者向けのルール説明会。その後、すぐに予選会がスタートします。予選は、4チーム対抗で1位が決勝リーグへ、2位が9位決定リーグに進みます。予選グループはA～Hまでの8グループです。長谷川萬治商店チームはGグループです。「ヴァーイ・ボロンマ」、「G」、「すみっこ」というチームと同じグループです。チーム名からはどんな方たちなのか全く想像が付きません。まずは「ヴァーイ・ボロンマ」チームとの対戦です。揃いのTシャツを着た神奈川県クップ連盟のミセスの皆様です。笑顔で握手をして試合がはじまります。ミセスの皆様の笑顔に緊張がほぐれ、初心者の我々は思いっきりカストピナ(木棒)を放り投げていきます。ビギナーズラックと監督土橋君の戦略のおかげもあり相手のクップ(木片)をどんどん倒していきます。戦略上のツボとなるクップの投げ返しは土橋君と主将の岡田君にお任せです。それがよかったのでしょうか。長谷川萬治商店チームがキングを倒し勝利となりました。クップの魅力のひとつに「ハイタッチ」があります。クップを倒すとみんなで「ハイタッチ」をします。1日にこれほどたくさんの「ハイタッチ」をしたことはありませんでした。最初は少し恥ずかしい「ハイタッチ」ですが、慣れてくれば自然に全員で「ハイタッチ」。野球やサッカー、ボーリングだと1ゲームに数回の「ハイタッチ」があればよいほうですが、クップは勝っても負けても1ゲームに何十回も「ハイタッチ」をするすばらしいスポーツです。

さて、2ゲーム目は「G」チームとの対戦です。Gグループだから「G」チームなのでしょうか。若い方もいらっしゃる男女混合チームです。上手な方は自分のターンになると必ずカストピナでクップを倒してきます。こちらはビギナーズラックがきれてしまい、初心者はあまりクップを倒せません。それでも監督と主将の活躍、そしていつも3番目に投げる草野さんの高い技術力に助けられ、なんとか自陣のクップの数の多さで勝利。2勝目をあげます。

3ゲーム目は「すみっこ」チームとの対戦です。名前の由来は、岩手県住田町です。豊富な森林資源と木材加工施設が整備されていることから「森林・林業日本一の町」を目指している町です。間違いなく今大会の優勝候補チームです。ここから、交通渋滞で遅れてきた坂口君が合流して長谷川萬治商店チームは6名になります。クップは4名～6名で1チームとなるチームスポーツで1ターンに6本のカストピナを投げます。4名だと上手い人が2投できるので有利かと思うのですが、これも土橋君から「クップは6名でやってこそ楽しいスポーツです」という指導をいただき、いきなり坂口君も参戦です。「すみっこ」チームは全員が上級者。しっかりチーム全員が的確に的となるクップに当ててきます。当てられたクップの投げ返しも達人技です。あっさりとキングを倒され敗北。ここでGグループ1位が「すみっこ」に決定し、我々は予選敗退。それでもグループ2位の我々は9位決定のトーナメントに進むことになりました。

9位を決める消化試合ということになってしまいますが、グループ2位同士の試合はレベルが高くて大変白熱した対戦になりました。我々は運よく2勝して9位となりましたが、全て接戦での勝利でした。

林野庁の方々のチームと対戦しましたが、さすが林野庁で木の扱いにとっても慣れてしています。こちらのミスを中心に突かれてあつという間に自陣のクップが倒されていきます。それでも、こちら回数を重ねるごとにチーム全員の投げる精度が高まってきました。ベースクップを倒されても次のターンでしっかりと倒し返して自陣の駒にし、最後に得点で勝つことができました。

決勝戦は、神奈川クップ連盟のクップ職人の皆様と宇都宮大学の学生達のチームとの対戦となりました。ここで、クップ特有のルールである、「キングを先に倒したらそこで負け」があろうことか決勝戦で発生してしまいます。優勝チームは宇都宮大学の皆様でした。ほとんどクップが倒れていないなかであつと決勝戦が終わるといふ意外な結末となりました。うまい人でも狙いすぎるとミスが生じますが、それにより一瞬でゲームが終わってしまうというのはとても過酷なことです。それでも、お互い笑顔で握手、観衆も笑顔で両チームをたたえました。我々が唯一敗北した「すみっこ」チームは圧勝の3位。やはり強かったです。来年の参加に向けて課題もわかり大変励みとなる決勝リーグの観戦でした。最後に表彰式、閉会式をやって終了。スウェーデン語のありがとう「タック」。乾杯の「スコール」を習って、集合写真を撮影して終了しました。

クップとは

クップ (Kubb) とはスウェーデン語で「薪(まき、たきぎ)」を意味しています。これはクップ競技発祥の地であるスカンジナビア半島スウェーデン沖にあるゴットランド (Gotland) 島で、どの家の軒下にも薪のあった時代にこの薪を用いた遊びが生み出されてきたことに由来します。一般的にこのクップ競技はバイキング時代の文化から生まれたのだとする認識が広く浸透していますが、これはゴットランドがかつてバイキングの活動拠点となっていたという歴史的な背景があるため、島民はそうした勇猛な祖先に想いを馳せ自らのアイデンティティを確認する役割を競技に託しているのだと考えられています。1995年からは毎年ゴットランド島において「クップ世界選手権 (VM i Kubb)」が開催され、島内はもとよりスウェーデン本土、他の北欧・バルト海沿岸諸国、更にはドイツ、イギリス、アメリカ、カナダなどといった世界各国からの参加チームで大いに賑わいを見せています。

さて、ここまで全くクップのルールについて触れていないため、クップがどういうものかわからないという方も多いと思います。実は、クップは文章で説明するのが大変で、公式ページのルール解説を読んでもよく理解ができません。また、その楽しさも文章からだとなかなか伝えきれないという問題があります。実際に私もそうでした。読んだり聞いたりしたクップの印象と体験してみた後のクップの印象ではまるで違うものです。一見、木を投げるだけの単純なスポーツに見えますが、木を投げる精度だけではなく、ゲーム展開の中で戦略も大事になってくる複雑な頭脳派スポーツです。木がどこに転がるのかわからないので、運も大きく左右します。ビールやお酒を飲みながら楽しめるスポーツというのも大きな魅力です。木が当たった時に響く音も心地よく爽快感を味わうことができます。老若男女問わず誰でも楽しめるスポーツです。是非、多くの皆様にクップを体験してほしいと思っています。

クップについて詳しい情報を知りたい方は、「日本クップ協会公式ページ」(<https://kubbjapan.jimdo.com/>)にアクセスしてください。また、我々も様々なイベントでクップの体験会、大会を開催していきます。まずは、来年3月に深川公園で開催する深川 Wood Fesでクップ体験会を予定しています。ご興味ある方は以下宛先までお問い合わせください。

「もくラボ」 info@mokulabo.com

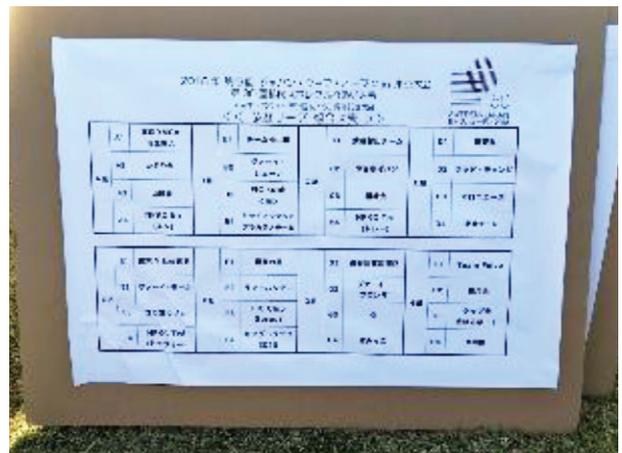
03 - 5245 - 1151



ジャパングップオープン開催



トロフィーと賞品



予選会



カストピンナを投げる土橋君



カストピンナ (木棒) とキング



カストピンナを投げる鈴木君
手前にある角材がベースクップ



開会式



練習風景



開会式



土橋君と草野さん



カストピンナを投げる草野さん



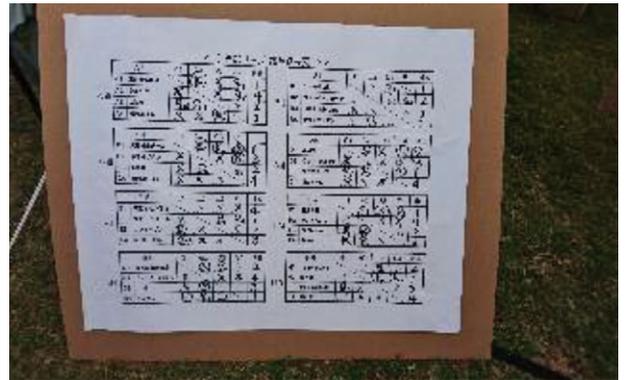
長谷川萬治商店チーム



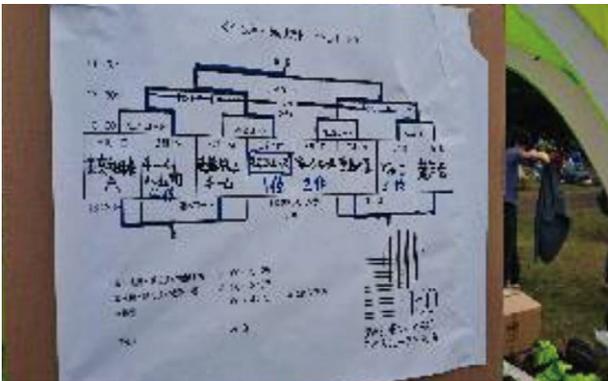
カップフィールド
真ん中のキングを倒すと勝利



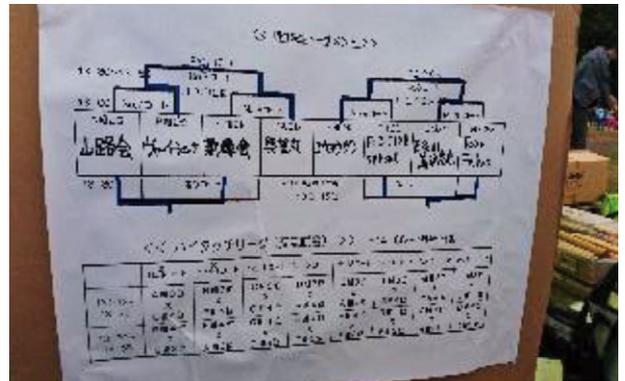
カップフィールド



予選会の結果



決勝トーナメント結果



9位決定トーナメント
長谷川萬治商店チームは2勝して9位



優勝チームには賞品としてカップセットの贈呈